

成果の説明書

(氏名) 漢利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 現在、16年ほどの研究のとりまとめを行っており、毎週、専門の先生方と検討会を行っている。本年度も、引き続き、それを継続する。</p> <p>(2) 国内トップジャーナル『産業経理』から招待を受け、『産業経理』83(3)に拙稿「ストック・オプション会計基準における譲渡不能性の取り扱い—ブラック・ショールズ・モデルのインプット情報としての予想期間—」が公表された。</p> <p>(3) 某国際査読誌（インパクトファクター1程度）より査読者の依頼があり、2024年3月にそれを受諾・実行した。査読を行った原稿が掲載された場合には、短いコメントが刊行される予定である。</p> <p>(4) 勤務日説の意義に関する論文を英語で執筆し、<i>Abacus</i>（インパクトファクター4）と <i>Australian Accounting Review</i> に投稿し、分析内容は高く評価された。現在は、別の海外トップジャーナルに投稿作業を行っている。また、2023年12月に、この経過報告を、日本会計研究学会の国際交流委員長を長く務められた野口晃弘先生主催の現代資本会計研究会（南山大学）で報告した。</p> <p>(5) (4)に加え、測定日と株式報酬費用の配分に関する原稿を英語で執筆し、<i>International Journal of Accounting</i>（イリノイ大学）に投稿し、ポジティブ評価を得た。現在、別の海外トップジャーナルに投稿作業を行っている。また、2023年8月に、この経過報告を、日本会計研究学会の国際交流委員長を長く務められた野口晃弘先生主催の現代資本会計研究会（南山大学）で報告した。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義 <p>【財務会計Ⅰ・Ⅱと中級簿記】</p> <p>新任の高橋先生が着任し、財務会計系統が安定してきたことから、本年度より、財務会計Ⅱの内容を国際財務報告基準(IFRS)へと変更した。また、昨年度から、公式LINEを作成し、そこから出席確認を行うこと、また、Formsのリンクを配布してミニクイズや確認テストを行うことにより、双方向講義を行い、今年度もそれを継続した。</p> <ul style="list-style-type: none">● ゼミ <p>全学年に対して、対面講義を利用したリアルタイム型講義を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 基礎演習(2年)：ゼミ募集の方法を変え、当ゼミを希望する学生を、前提知識に関係なく積極的に採用したところ、意欲的なゼミが展開できている。➤ 演習Ⅰ：昨年度に引き続き、2グループでグループ研究を行った。その結果、うち1班が、当ゼミOG（東京海上日動火災保険株式会社）との共同研究で、日経インナー大会で予選ブロック3位に入り、12月の明治学院大学（山田ゼミ）・武蔵大学（山下ゼミ）・國學院大學（中田ゼミ）とのインターゼミでも、優勝と質疑応答賞を獲得し、群馬県立女子大学・前橋工科大学・高崎商工会議所との共催の群馬県公立大学連携事例発表会に参加した。また、もう1班も、学内研究費の規程改定に尽力した。➤ 演習Ⅱ：自由テーマの論文をほぼ全員が提出し、2月卒論発表会・謝恩会をオンラインで行った。卒業論文集は、学内で図書館に所蔵し、ホームページでも掲載した。	
2 その他の事項	

- 例年の業務に加え、大学院担当が増えたため、研究科会議等の大学院の業務に従事した。
 - 大学院・自己点検評価委員
 - 日本学生経済ゼミナール関東部会 第 63 回インナー大会 プレゼンテーション部門審査員
- ほか

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- 研究のとりまとめを継続し、博士学位申請論文を完成させる。
- 国際査読誌への 2 本の掲載を目指す。

【教育活動】

- 昨年度から内容を変更した財務会計Ⅱの内容を精緻化させる。
- 今まで展開してきた双方向講義を、Webclass を追加して、深化させていく。